

平成22年12月 第4回定例会 一般質問

福沢 清 議員

質問項目	質問内容	答 弁
健康づくり家庭訪問について	健康づくり家庭訪問の目的は何か。	各種保険事業を紹介し相談に応じるとともに、健診の受診率アップをはかり、市民総健康、生涯現役を目指す。

12月の一般質問を振り返って

福沢清

1、健康づくり家庭訪問について

飯田市が地域健康ケア計画の重要な事業として始めた「健康づくり家庭訪問」を前向きに評価しさらに発展させる立場で、自分もモデル地区の一員として率直な感想も含めて質問しました。

飯田市の回答はほぼ予想どおりでしたが、受診率の算定が現時点ではあいまいな気がしました。

今後、飯田市として積極的に自ら各家庭を訪問し、健康に対する市民の要望をつかみ市政に反映していくことが必要だと感じました。そのためにこのモデル事業が橋北全体で取り組んでいくことが、市から述べられたことは方向性として評価したいと思います。

健康づくりだけでなく常に市民の声を聴くため、足を運ぶことが議員も市役所の職員も求められているのではないのでしょうか。

2、失業対策について

現在の飯田市の失業者に対する政策を明らかにし、県で国に要求している「パーソナル・サポート・サービス」について飯田市、市民の方々にも理解していただくように今回取り上げました。

失業者数が市段階で把握できない現在の仕組みがある以上、飯田市が住宅対策、求職対策など来庁者に対して行っているのは精一杯ではないかと思う。今後このパーソナル・サポート・サービスを研究していくという市の回答だったので期待したいと思います。

パーソナル・サポート・サービスは個人に対する行政のサービスなので今後それに沿った行政マンをどのように育てていくのかさらに見守っていききたいと思います。

もう一点このパーソナル・サポート・サービスが国の政策となった場合飯田市として委託する団体はどうするのか、それとも市として直営事業として行うのか質問で聞き逃してしまいましたが市の考えをただしていかなければいけません。

市の回答では「現在の生活保護者に対する施策で、パーソナル・サ

ポート・サービスの施策は賄える」とのニュアンスでしたが、今後検証していく必要があると考えました。

答弁詳細資料

1、健康づくり家庭訪問について

- 福沢 今、始まっている健康づくり家庭訪問についてどのようなものでしょうか。
- 市 地域健康ケア計画2010の重点プロジェクトで、橋北地区の中115戸全戸を保健師が訪問するものです。各種保健事業を紹介し、市民の健康ニーズをつかみ、健診の案内、受診率の向上を上げることを目的としています。
- 福沢 この事業は第5次基本構想、基本計画のどの部分にあたりますか。
- 市 健やかに安心して暮らせるまちづくりの中、市民一人ひとりが心身ともに健康に暮らせることを目的に、地域健康ケア計画が作成され、その重点が今回の家庭訪問です。
- 福沢 この家庭訪問の目的のなかで重要なこのひとつは健診率の向上と認識しています。
- その健康受診率はどのように計算されているのですか。たとえば勤め人は統計に入っているのですか。年齢は何歳からはいくつから該当するのですか。
- 市 計算上の分母は全住民となっています。勤め人の受診についてなど、今までの統計は十分につかみきれない部分もありました。来年度からは精度をふかめた統計となるようにします。
- 福沢 この特定健診のないようについてお聞きします。
- 市 生活習慣病の予防です。40歳から74歳の方が該当し、受診率は飯田市で平成20年度38.5%、平成21年度36.3%でいずれも国の基準を上回っています。
- 福沢 国の受診率の目標値は、65%ときいています。国の目標に比べると数字が低い原因をどのようにみていますか。
- 市 行政の側が啓発なことと、健診を受けるとよいことはわかっている一方では病気が見つかる恐れがあることなどがあげられます。
- 福沢 今回の家庭訪問では、全世帯が該当しているが、若い人への訪問もあるがこの目的はなんでしょうか。
- 市 20代から30代の若い男性のところは費用対効果など問題点もありますが、今回は全世帯をやって今後検証していきたいと考えています。
- 福沢 いままで家庭訪問をしたところでは、地域を担当している保健婦の「顔見知りになれたことが一番」の収穫という声は何人もの方から聞かれました。病院までいかないまでも家族の健康の相談に気軽をかけることができることが大きなメリットとして考えられます。

またこれを機会に自分の健康について意識するようになったことも事実です。

飯田市として自ら市民の家庭を訪問するという形は画期的で、あまり例もないと思います。滋賀県の野洲市で介護予防で寝たきりにならないための事業があるようです。自分としては橋北」はもとより全市に広げていただきたいと考えますがいかがですか。

市 今年度は橋北の2町、来年度は橋北地区全体をやって検証して、全市のことも考えていきます。

2、 失業対策について

福沢 最新の全国の失業率は5.1%、飯田下伊那の求人倍率は0.66%と聞いています。飯田市として失業対策はどのようなものがあるか。
市 この地域もリーマンショックの影響を受け厳しい状況は変わっていません。失業者に対しては、住宅に対する相談、ジョブカフェ、就職支援活動などがあります。

福沢 長野県が国に対して要請しているパーソナル・サポート・サービスについて飯田市の考え方はどうですか。

このパーソナル・サポート・サービスとは、わかりやすく言えば、行政が専門知識を持った友人の役割を担うということ。言い換えれば、一昨年年末年始に生活困窮者に対して手をさしのべた派遣村の行政版です。

行政はワンストップサービスとして縦割り支援体制を直していくというものです。つまり一人ひとりの失業者について住宅、借金、求職などいろいろな相談にのるというシステムです。

長野県としては国に対してこの事業に応募する意向で、報道によると長野、松本、上田が拠点となるようですが、市長のお考えはいかがでしょう。

市 パーソナル・サポート・サービスについて、こうした厳しい状況の中考え方はいいと思います。

飯田市でどのように使うことができるか研究していきます。

福沢 この制度の目的は失業者をどのように血の通った行政となるかが問題で今の制度を活かしながら、困った人により良い制度をつくってほしい。
市 制度の趣旨はよいと思います。ただ今の生活保護制度で対応することができるのではないかと考えています。